

Butsuryo Shinbun

No.08

発行所：大阪物療大学
発行者：田中博司
発行年月：平成27年1月1日
編集：広報委員会
※無断転載を禁じます

〒593-8324
大阪府堺市西区鳳東町4-410-5
TEL.072-260-0095

診療放射線技師の
オンリーワン大学を目指す



《建学の精神》
之科學為報國修

<http://www.butsuryo.ac.jp/>

学長ご挨拶（新年をむかえて）



大阪物療大学 学長
田中 博司

新年を迎えての学長ご挨拶

あけましておめでとうございます。

学長の田中博司です。いよいよ本年3月には大阪物療大学として初の卒業生が誕生します。手探り状態での開学式・入学式よりはや4年の歳月が過ぎました。今回無事に卒業生を輩出できる運びとなったのは、開学から今日まで1期生及び教職員の協力のもと、より良い教育環境を目指して各自が日々努力、研鑽をされてきた賜物だと思います。

過去の幾多の先人たちが夢に描いた診療放射線技師による大学教育の第一幕の完成です。まだまだ不十分な内容ではありますが4年教育での違いを少しでも示せれば幸いです。今後はこれまでのさまざまな教訓を糧とし、在学生の指導により一層力を入れていきたいと思いますので是非皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

CONTENTS

■ 学長ご挨拶（新年をむかえて）	2	■ 臨床実習（3年次生）	6
■ 物療祭	3	■ 就活インタビュー（4年次生）	7
■ 卒業研究発表会	3	■ 就職ガイダンス	7
■ 市民公開講座（堺市後援）	4	■ 2015年度推薦入試実施結果	8
■ 2014年度オープンキャンパス総括	4	■ 2015年度入試概要	8
■ 近畿地区診療放射線技師 教育施設学生体育大会	5	■ 第一種放射線取扱主任者試験 合格者の声	8
■ 医療施設見学体験（1年次生）	5		
■ 学内実習（2年次生）	6		

物療祭

Let it go ～ありのままの物療生～



本学が開学し初めて4学年の学生がそろった今年、第3回目となる物療祭が平成26年10月31日(金)、11月1日(土)の2日間に渡って開催されました。

今年の物療祭は世界中でブームになったディズニー映画にちなんで『Let it go ～ありのままの物療生～』というテーマのもと、学生一人一人が自分自身の意思・意見を持ち、自分らしさを大事にしようとの思いを込めて行われました。

メイン会場であるアリーナでは、1日目には学内の英語クラブ「SOEC」による英語でのコンサートを始め、ダンスやミス・ミスター物療コンテスト、ハロウィンに似った仮装大会、2日目には「自分の身体は自分で守りましょう～脳梗塞とリハビリテーション～」をテーマとする市民公開講座や4年次生による卒業研究発表会、ビンゴ大会等様々なイベントが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。

今回初めて行われた「卒業研究ポスター展示」では、4年次生が放射線基礎領域、放射線応用領域、核医学・放射線治療領域、画像情報領域の4つの領域の中から各々の専門分野の研究成果について発表を行いました。また在校生とのセッションでは、1年次生から3年次生までが卒業研究発表者による研究内容の説明を真剣に聞き、積極的に質問していました。

アリーナ下に出店された各クラブによる模擬店では、フランクフルト、たこ焼き、中華そばといった定番メニューから、変わりクレプや美味しいソースのパンケーキなどのアイデアメニューも登場し、大変な賑わいとなりました。また、今回の物療祭でも本学の保護者会である育友会によるフリーマーケット等も行われるなど多くの方々のご参加を賜り、学生自治会・物療祭実行委員のエネルギーな企画運営と相俟って、テーマ『Let it go』通り、「大阪物療大学生」独自のカラーが出た、笑顔と活力溢れる大学祭を行うことができました。

卒業研究発表会

■卒業研究発表会について

卒業研究では、本学で学んだ放射線技術の総括として、4領域(放射線基礎領域、放射線応用領域、核医学・治療領域、画像情報領域)に分かれて研究活動を行います。各領域は、2～4名の教授の研究室で構成されています。各研究室にはそれぞれ5～7名の学生が割り振られ、個別に研究テーマが与えられます。そのテーマをベースとし教員の指導のもと、4年次生の前期に卒業研究を行います。

卒業研究の成果は、物療祭内の「卒業研究発表会」にて披露されます。発表方法としては、卒業研究を行った全4年次生の「ポスター発表」と、各領域から2題ずつ選抜された計8題目による「口述発表」とがあります。

「ポスター発表」では、教員が学生の研究を評価しポスター賞を選出する「教員セッション」、1～3年次生へ向けた「在学生セッション」、来学者へ向けた「一般セッション」の3つのセッションを設け、4年次生は各々が作成したポスターの前で研究内容の質疑に応じます。聞き手の理解を得られるまで実際に対面して行う形の質疑応答となるため、学生

にとっては大変有意義な時間となりました。

一方、「口述発表」は制限時間内で研究内容をプレゼンテーションする形の発表となりますが、一度に多くの聴衆へ研究内容を公表することから、制限時間内で全聴衆が理解できる発表を心掛けねばならず、まとめる力が必要となります。発表する学生たちは、初めは緊張した面持ちを見せながらも、自身の発表時には凛とした眼差しで聴衆を見つめ、4年間の学修の集大成を見事に披露しておりました。

卒業研究発表会を通して4年次生は、本学の最高学年生としての自覚を新たにすると共に、これから社会へ出る一人の大人として大変貴重な経験を成し遂げることができました。



市民公開講座（堺市後援）

自分の身体は自分で守りましょう

【第8回】 平成26年11月1日(土)
～脳梗塞とリハビリテーション～



平成26年11月1日(土) 本学4号館アリーナにて、堺市後援のもと第8回市民公開講座を開催致しました。

今回は『自分の身体は自分で守りましょう』をテーマに脳梗塞について取り上げ、沢山の方にご来場いただきました。脳梗塞とはどんな病気であるのか、またその兆候として現れる症状はどのようなものであるのか、そして検査方法・治療法・リハビリテーションはどんなものであるのか、について本学教員の橋本、山口の講演を皆様大変熱心に耳を傾けておられました。また、講演終盤には本学教員の高井と学生による「脳梗塞から身を守る体操」と題したオリジナル体操が実施され、参加者の皆様が一体になって楽しく元気に普段なかなか意識することのない身体の部位を動かしておられました。

また今回の講座は本学学園祭『物療祭』と同日に行われたこともあり、講座終了後には、ご参加の皆様は4号館内に出された各屋台にて学生との交流を大変楽しんでいらっしゃいました。

今後も本学の市民公開講座がより一層皆様のお役にたてるものとなるよう精進するとともに、ご参加賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。

2014年度オープンキャンパス総括



本学では2014年度オープンキャンパスを、6月1日(日)、6月29日(日)、7月20日(日)、8月24日(日)、9月21日(日)の日程で開催致しました。

模擬講義、大学説明会、個別相談、面接相談、パネルと映像による本学の紹介、施設案内、在学生との団らん会、女子カフェなど盛りだくさんのイベントで参加者をお迎えしました。とりわけ最先端の医療機器に触れることができる『実習体験コーナー』では、多くの方々に「本学での実習がどのように行われているのか学べる良い機会となった」、「とても有意義な時間を過ごせた」とご好評を頂きました。

また、在学生との団らん会、女子カフェでは「実際に通っている学生の生の声が聴ける」、「何でも気軽に相談できる」という理由からたくさんの方が積極的に参加して下さり、本学の学生と大変打ち解けた様子で話をしていたくれました。



大阪物療大学では毎年、少しでも本学のことをご理解頂けるように工夫したイベントを開催致しております。普段の生活ではなかなか関わる機会のない診療放射線技師という職種について、知ってもらえる機会となることを切に願っております。

尚、本学ではオープンキャンパスにご参加いただけなかった方にも、「フリーキャンパス」システムにて教員が個別に対応し、施設案内や様々なご相談をお請けしております。ご希望の方は本学ホームページからお電話にてお申込み下さい。よろしくお願い致します。

近畿地区診療放射線技師教育施設学生体育大会

第55回

近畿地区診療放射線技師教育施設学生体育大会に参加して

台風18号が過ぎ去った後の台風一過で快晴となった平成26年10月8日(水)、兵庫県西宮市にある大阪ガス今津総合グラウンドにおいて、第55回近畿地区診療放射線技師教育施設学生体育大会が開催されました。

本学、京都医療科学大学、大阪行岡医療専門学校長柄校、清恵会第二医療専門学校、神戸総合医療専門学校の5校が参加し、9種目の競技を行いました。本学からは1・2年次生が参加し、懸命かつ正々堂々と競技に挑み、熱戦が繰り広げられました。

硬式テニスは1戦目の快勝が及ばず2位、バドミントンは白熱した戦いで1位を獲得しました。バスケットボールは夏休み中も練習をしてきた成果を発揮し1位を獲得。ソフトボールも1位を獲得し、昨年度、天候不



良の影響で中止となった悔しさを見事晴らしました。サッカーはPK戦で惜しくも敗れ初戦敗退。バレーボールは4位、卓球は3位となりましたが、どの種目もレベルの高い試合を披露し、観戦者からも熱い声援が送られました。

7種目の競技が終わった時点で、本学は総合順位2位。大一番となる最終競技の綱引きと学校対抗リレーを迎えました。学生・教職員が一体となって惜しみない声援を送りましたが、選手たちの健闘あと一歩及ばず……。綱引き2位、リレー3位、総合順位2位という結果で本大会を終えました。

残念ながら総合優勝は逃しましたが、大会終了後、学生からは「出場選手が全力を出している姿がとても格好よかった」「普段なかなか話す機会のない他校の学生や、上級生・下級生との交流があって楽しかった」等の声が聞かれました。各競技においても、開会式や閉会式の整列においても、本学学生の爽やかな健闘、マナーの良さが目立った大会でもありました。来年はぜひ再度優勝旗を本学に持って帰って来てもらいたいと思います。



医療施設見学体験(1年次生)

病院・施設見学実習

5月の連休の終わるころ、1年次生の「病院・施設見学実習」が始まりました。真新しい白衣をまとい、緊張気味の学生の姿からはまだ想像すら難しいですが、彼らはこれから多くのことを学び、経験し、4年後には診療放射線技師として患者さんと接することになるのです。

社会医療法人ペガサス・馬場記念病院での病院見学では薬剤部、医療技術部、臨床検査部、生理検査部、ME部、健診センターの5か所の見学をさせて頂きました。学生たちは超音波を使用しての頸動脈の検査、乳房撮影装置に実際に触らせてもらえたこと、ME機器を実際に装着し、脈拍などを測定してもらったこと等に変な興味を示しておりました。



施設見学は社会福祉法人遺徳会・サンシャイン高石の老人保健施設と特別養護老人ホームの2か所で行われました。両者は高齢者介護施設であるため、障害者用トイレや寝たまま入れる浴槽など施設内は様々な工夫がなされており、学生の目にも新しく映ったようです。また、学生たちは入所している方との対話の中で、認知症や耳が遠い高齢者の方とコミュニケーションをとることの難しさを痛感しており、今後どのように彼らとコミュニケーションを図っていくのかを考える一つの大きなきっかけとなったようでした。



学内実習（2年次生）

■学内での実習がスタート！

2年次生後期より始まる授業、「診療画像技術学実習Ⅰ・Ⅱ」は、これまで講義等で学習してきた放射線技術学の理論を実践に応用する能力を身に付けるとともに、診療放射線技師の役割と義務の理解を深め、医療人としての人間形成を図ることを目的として行われます。この実習では、講義と違ってグループで一つの課題を行うことが多く、それ故一人一人が自覚と責

任を持ち、グループ全員と協力・協働して、スムーズに進行するように考える必要があります。そのために、実習書をよく読んで内容を把握してから実習に臨む「予習」に重点を置いています。あらかじめ理論・課題を学習してから実習に臨むことで、これまで講義で学んできた内容が整理できます。さらに実習後は実習内容をまとめた報告書を作成することで、より理解が深まります。報告書作成により学生たちは、実習で



得た結果を正確に表現すること、その結果をしっかりと議論・考察し第三者に分かりやすく伝えることをも学び、大変充実した時間となっています。

臨床実習（3年次生）

■3年次生が臨床実習に行ってきました！

9月8日から9月30日の15日間、3年次生83名が初めての臨床実習、「臨床実習Ⅰ」に取り組みました。

臨床実習は近畿一円の大学病院をはじめとした数多くの高度な医療施設のもと、学内において学んだことを確かめるだけでなく、実際の臨床における必要な技術や知識を得ることを目的としています。

学生一人一人が患者様や他の医療職のスタッフの皆様との関わり合い方について、また臨床の現場における技術面等について習得目標を立て、「臨床実習Ⅰ」に臨みました。

患者様への対応など学生にとっては初めて経験することも多く、緊張や戸惑いの中で今までの学習不足をひしひしと感ずることとなったのも事実ですが、本当に多くのことを学べた充実した15日間でした。

また実習終了後は「臨床実習Ⅰ終了報告会」を行うことで、学生同士情報を共有し合い、来年度に続く臨床実習Ⅱ、Ⅲへ向けて精力的に学生生活を送っています。

最後となりますが、たくさんのことを経験、勉強させていただいた患者様、臨床実習指導者の先生、そして医療スタッフの皆様へ深く御礼申し上げます。

■臨床技能教育プログラム

本学で実施する臨床技能教育プログラムは、臨床実習前の学生が総合的な臨床技能である患者接遇能力、検査対応能力および臨床画像評価能力を習得するためのものです。このプログラムによって臨床現場で患者さんが安全で安心な検査を受けていただくための総合的な臨床技能を学ぶことができ、臨床実習へのスムーズな導入が可能になると考えています。

学生は、臨床における診療放射線技師の業務に必要な臨床技能を想定した「患者対応（面接）」、「検査技術」、「移乗動作」および「臨床画像評価」の4つのステーションを巡回し、制限時間内で与えられた課題を実施した後、担当教員より長所や短所などのコメントを受けながら習得していきます。



夢に向かって走れ!

就活インタビュー(4年次生)

Q1 診療放射線技師になりたいと思った理由は?

柴田：父親が楽しそうに仕事の話をしたり、熱心に取り組む様子を見ていたから。

小平：「余命一か月の花嫁」という映画を見たことで乳がんという病気のことを知り、映画の主人公のような女性を減らしたいと考え、乳がん検診等について調べた。その結果診療放射線技師という職業の魅力、役割の大きさを知り、自身がそうなりたと思ったから。

Q2 志望先はいつごろどのようにして決めた?

柴田：入学時から志望先を決めていた。志望先の病院で開かれる勉強会、学会に出席したこともあり、その中で先生方の発表を聞いて、自分もその研究に関わり、学びたいと思い、決断した。

小平：4年生の夏ごろ。先生と相談しながら自身の将来像を見つめなおす中で、先生からの紹介により決断した。

柴田 佳祐



小平 麻未



インタビュー協力：柴田 佳祐
小平 麻未
増井 辰也

Q3 大阪物療大学の就職サポート、どんなことが役立った?

柴田：病院見学を夏期休暇中に行くように勧められたことで行ってみないと分からない病院の状況、雰囲気を知ることができ、履歴書等の自己PRを書く際に大いに活かした。

小平：先生との密な距離感での相談、本学のHP上在学生向け就職支援システムがとても役立った。

増井：面接対策では先生が面接対策として模擬面接をしてくださるので本番では緊張せず普段通りの自分で行うことができた。また、履歴書に関しては、先生方、事務職員の方と、多くの人に目を通してもらいながら添削していただけたのでとても助かった。

Q4 後輩に向けてのアドバイスをどうぞ!

柴田：コミュニケーション能力をつけること。志望先の試験で、筆記はできたのに面接で落ちたというのはもったいない。相手に聞きやすく、興味をもってもらえるような話し方ができるように心がけて欲しい。学校の友達、バイト先、実習先の病院、大学生の今こそコミュニケーションスキルを上げる絶好のチャンス!

小平：就活は早めの情報収集がとても大切。自身の志望病院を早めに確定し、就活の為に自身にあと何が必要かを見極めるためにも、就職ブースの活用や先生方とコミュニケーションを図る中で積極的に情報収集に努めてほしい。みんながんばれ!

増井：日頃の授業を大切にすること。また、勉強において張り合うことができる学友を見つけ、診療放射線技師を目指すモチベーションにつなげてほしい。

就職ガイダンス

■より良い医療人・社会人を目指して～

平成26年度前期のキャリア(就職)ガイダンスは、1年次生から3年次生までを対象に全5回実施されました。1年次生に対しては「医療人としてのマナー」及び「学生生活の過ごし方」をテーマに、2年次生に対しては「医療現場で求められる放射線技師像」をテーマに、そして3年次生に対しては「卒業後の進路選択」と「社会人・医療人としてのマナー」をテーマに、いよいよ来年に迫った就職活動に向け、大変中身の濃いガイダンスが行われました。学内の教員だけでなく学外からも講師をお招きしたことで、学生にとっては医療現場の生の声を聴く大変良い機会となりました。

後期については、全9回のガイダンスが予定されており、既に前半の6回が終了しています。内容は、1年次生に対しては「より良い医療人になるために学生生活でできること」及び「医療人に求められるコミュニケーション

能力」について、2年次生に対しては「業界ガイダンス—臨床の現場を知る—」及び「業界ガイダンス—研究の現場を知る—」について実施されました。また、後半の3回については、3年次生を対象に就職活動に直結した内容のガイダンスを準備しており、講師も外部より専門家を招いて実施される予定です。



大阪物療大学保健医療学部 2015年度推薦入試実施結果

試験実施日 2014年11月9日(日)

志願・入学 手続状況	選抜区分	募集 定員 (A)	志願者数		受験者数		合格者数		志願倍率 (B/A)	受験倍率 (C/A)	合格倍率 (C/D)
			総数 (B)	現役数 女子数	総数 (C)	現役数 女子数	総数 (D)	現役数 女子数			
推薦入試		35	92	82	91	81	33	30	2.63	2.60	2.76
				23		23		6			

推薦入試合格者の 筆記試験成績 (基礎学力検査)	入試区分	推薦		
		最高点	最低点	平均点
基礎学力検査(100点)		77	50	62.4

※筆記試験(基礎学力検査)・調査書・面接試験の総合評価により可否を決定。
※面接・調査書評価は非公開。

問題については、本学ホームページにて公開中



2015年度入試概要

平成27年度の入試は推薦入試が終了し、一般入試、社会人入試を残すのみとなりました。
診療放射線技師や医療系を目指す方に本学の受験を薦めていただくようお願いいたします。

① 募集学部／学科

保健医療学部／診療放射線技術学科

② 定員——80名(男・女)

③ 修業年限——4年

※診療放射線技師国家試験の受験資格が得られます。

④ 募集人員

入試区分	推薦入試	一般入試	社会人入試
募集人員	終了	43名	2名

⑤ 入試日程・選抜方法等(平成27年1月～平成27年3月)

選考 区分	試験日	募集 人員	出願期間 (郵送必着)	合格 発表	手続 期間	試験場
一般 入試	前期 日程 1/25 (日)	35	1/5(月)～1/20(火)	1/28 (水)	2/27 (金)	本学 (1号館 もしくは 4号館)
	後期 日程 3/22 (日)	8	3/5(木)～3/19(木)	3/23 (月)	3/27 (金)	
社会人 入試	3/22 (日)	2	3/5(木)～3/19(木)	3/23 (月)	3/27 (金)	

※募集人員は予定。

※2015年度入学試験では大学入試センター試験利用選抜入学試験は行いません。

詳細、お問い合わせは、入試グループまで TEL: 072-260-0096 E-mail: nyushi@butsuryo.ac.jp

第一種放射線取扱主任者試験 合格者の声

文部科学大臣が与える国家資格である、
第一種放射線取扱主任者試験に、本学6名が見事合格しました。
おめでとうございます!!!



4年次生 本田 真規

〈どのような勉強方法をとっていたか〉

放射線概論と過去問を徹底的にやっていました。

〈どのような勉強方法をとっていたか〉

放射線概論の教科書を用いて重要なことをノートに整理していました。

〈資格を取るために苦労したことは〉

4月～8月のテスト当日まで勉強できる時間を全て割いたこと。
その期間、土日は全て勉強にあてていました。

〈合格してどのように資格を生かしていきたいか〉

就職後、人体に対する影響を交えて正確に医療被ばくについて説明し、患者さんの不安の軽減に努めていきたいです。

〈資格を取るために一番役だったことは〉

一年次の基礎的な授業。特に、放射物理と放射化学です。

〈後輩に向けてのアドバイス〉

授業ノートはきちんととっておくことです。それがきっと役に立つはず!



3年次生 桐山 拓也



3年次生 西村 真由子



2年次生 西井 萌



2年次生 西村 幸佐久